

# 縣陵東京同窓会課題(6年委員会視点)

# もくじ

- 会則視点での課題
- 会則以外の視点での課題
- 課題(解決)まとめ

# 会則視点での課題

---

# 会則視点での課題

## ■ 「6年委員」の定義が明文化されていない

- 6年委員 の背景 考え方が「**伝承**」になっている
- 松本総会幹事である卒業25年日からさらに1年前の卒業24年日から東京同窓会幹事年前年の卒業29年目を対象とする？
- 松本総会幹事は昨今感染症の影響で、2021年,2022年懇親会が中止となり、幹事が高48回(2023年卒業27年目)から進んでいない

## ■ 「新規会員」の枠が大きすぎる

- 新規会員 = 若手？ 中堅？
- 仮に、新規会員が若手も中堅も含めた「全て」がターゲットとした場合、6年委員を除いたとしても、卒業1年日から卒業23年目をターゲットとする形になり、かなり広範囲  
→現行リソース・情勢ではかなり負荷が高い。  
6年委員の増強と新規会員の増強 で優先度付けが必要

7. その他、総会及び懇親会に関する事項。  
(6年委員会)

第8条 6年委員会は、左記事項を推進する。

1. 事業年度運営計画、予算の策定・提案。
2. 6年委員の増強に関する事項。
3. 6年委員会の招集と運営に関する事項。
4. 新規会員の増強に関する事項。
5. 総会指導委員会との連携に関する事項。

(縣陵レディース委員会)

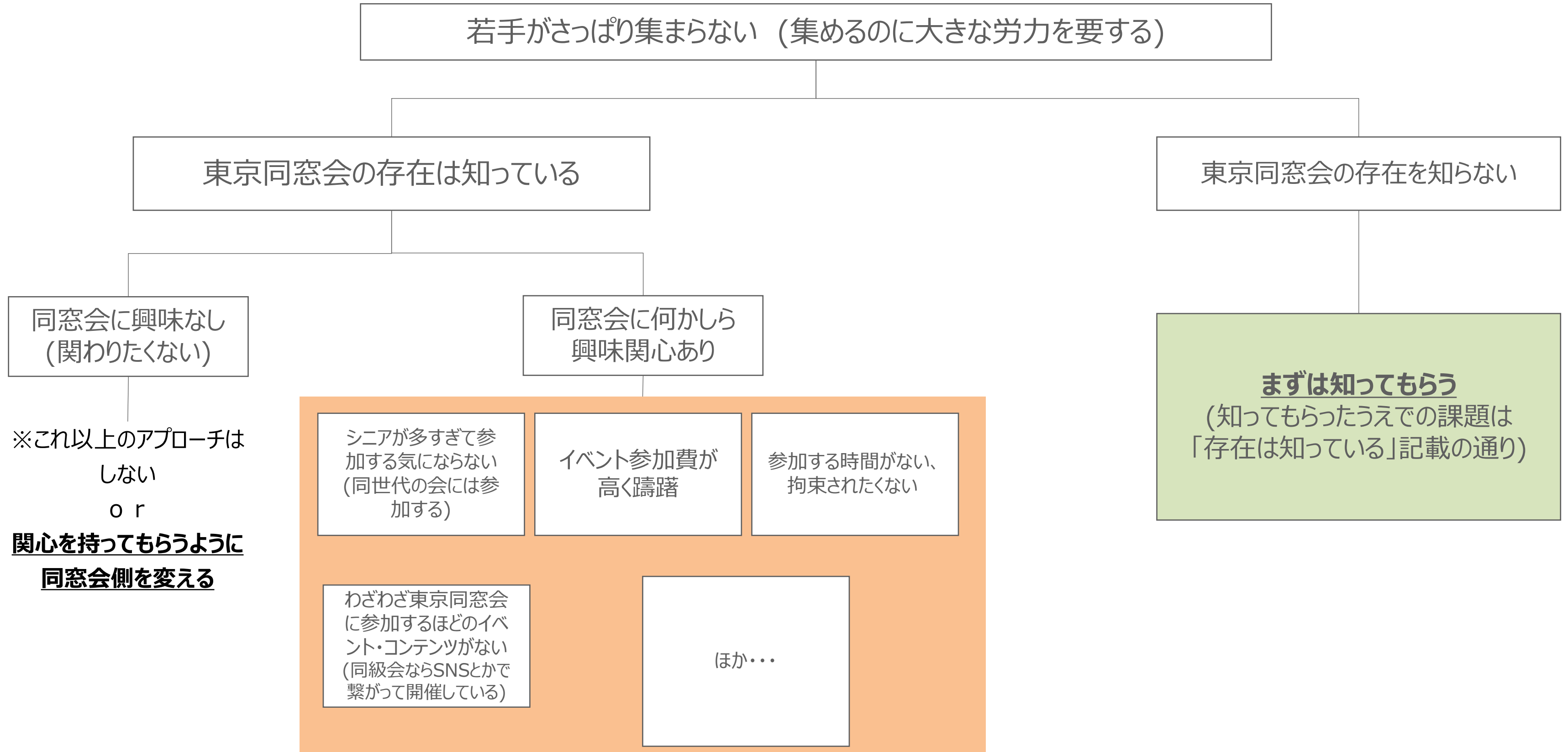
第9条 縣陵レディースは、左記事項を推進する。

1. 女性会員の同窓会活動への参加促進に関する

# 会則以外の視点での課題

---

# 県陵東京同窓会 若年層開拓を軸とした課題



# 課題とその原因 それを解消する対応策(案)一覧(2022年11月時点)

	東京同窓会に若手が集まらない要因	要因の背景	要因を解消するための施策(案)
1	そもそも「東京同窓会」が存在していることを知らない	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業直後に周知はしているが、バタバタしていて認知にまで至っていない(そもそも若いころは関心がない)</li> <li>卒業後から卒業30年目直前 = 愛のリレー幹事の直前で初めて認知のケース多数</li> <li>同窓会に参加したくなるタイミング(卒業10～15年?)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>比較的アプローチしやすい、卒業25年目頃(※)の世代(松本本部の総会・懇親会幹事で集まる)に対してのアプローチを体系化する(懇親会当日に行っても多忙なので、準備検討フェーズに行くべき) <ul style="list-style-type: none"> <li>※最近では25年目から28年目が変わっている</li> </ul> </li> <li>それよりも若手へのアプローチについては、東京同窓会の位置づけ、若手が集まりたくなる状況を作ってから検討</li> </ul>
2	東京同窓会の活動に参加する意義が見いだせない	<ul style="list-style-type: none"> <li>かつては同じ高校(特に同級生)と集まるきっかけの場は同窓会くらいだったが、現在はSNSの普及等により、<b>同窓会に頼らずとも同級生とは会える</b>ようになっている</li> <li><b>参加したくなる活動がない</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>ゲストとして飲み会は参加してもよいが、それ以上の活動は、..</li> </ul> </li> <li><b>ビジネス面のつながりがそれほど強くない</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>同窓会の規模が大きくなれば変わるかもしれないが、現時点の規模ではビジネス面のつながりはあまり期待できない 例：若手主体による東京ビジネス交流会のとん挫</li> <li>あるいは現在参加者で知見・ナレッジを出し合えばビジネス面からのアプローチも有意義になるかもしれない</li> </ul> </li> <li><b>母校への貢献が見えづらい</b> (松本はまだ現役生へのアプローチが見えやすい)</li> <li>参加しなくても別に困らない (伝統が途切れても構わない。なぜなら関わっていないから)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>若手も参加したくなる東京同窓会の「ありさま」を再定義</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>誰による 誰に対する 何の目的のための活動なのか</li> </ul> </li> <li>活動を再定義を<b>考える部隊(会社の「戦略企画、経営企画」組織)がない</b>。現状の延長しかできない</li> <li>若手も参加したくなる東京同窓会の「ありさま」を<b>実現するための体制、リソース(人員・予算)の配置、活動の策定・実行</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>既存イベント(特に総会・懇親会・会報発行)の位置づけ・手法、規模の見直し</li> <li>若手も参加したくなる新たな活動(イベント)の検討と実施</li> </ul> </li> </ul>
3	東京同窓会に参加したくなるようなイベント・目的がない	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>同級生と集まるだけであれば懇親会でなくても集まれる(SNS活用)</b></li> <li>かつて、若手獲得のためアトラクション色が強くし参加者が増えた時代もあったが、それが逆に「幹事は大変」と思わせ関与を敬遠させている面も見受けられる</li> <li>6年委員のリソースが限られ、イベントもそれほど開けない</li> <li>感染症により、リアルイベントが開催しづらくなっている(ここ数年)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(東京同窓会の「ありさま」を再定義したうえで) <b>「同窓会だからできる活動・イベント」の検討 実行</b></li> </ul>
4	時間がない	<ul style="list-style-type: none"> <li>かつては卒業30年目は子育ても一段落という方が多かったが、晩婚化により現在は卒業30年目は子育て真っ最中の人も多く、時間的制約で積極的に同窓会活動にかかわれない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>同窓会活動に対する負荷の軽減</b>(特に懇親会幹事回の負担) 負荷軽減に伴う、既存活動の見直し</li> <li><b>短時間でも参加できる仕組みづくり</b>(幹事活動、同窓会活動)</li> </ul>
5	その他ハードルがある ※これは1つの要因でしかなく、上の要因があったうえで「最後の押し」となっている要因に見える	ハードルの要素：参加費が高い 参加してもシニアばかり	

# 課題(解決)まとめ

---



# 課題(解決)まとめ

## ■ 6年委員会の「6年委員」の定義を会則に明記

- 例：6年委員とは、松本総会幹事である卒業25年目からさらに1年前の卒業24年目から東京同窓会幹事年前年の卒業29年目までの東京同窓会員から選出された者とする

## ■ 6年委員会の「主たる」活動を会則に明記

- 例：「6年委員の開拓」を「主たる」活動と定義（新規会員の増強 も会則に明記するが、優先順位は「6年委員」の開拓の次）

## ■ 若手も参加したくなる東京同窓会の「ありさま」を再定義

- 何のために東京同窓会は存在するのか の整理・再定義 ※これが明確にならないと「6年委員の開拓」「新規会員の増強」はできない 他の活動も同様か

## ■ 「東京同窓会のありさま」を実現するための体制、リソース(人員・予算)の配置、新たな活動の整理

- ありさまを実現するために必要な活動(新たな活動)、活動を定義する会則の整理、再定義（例：レディースの会と6年委員会のイベント共同開催）
  - 東京同窓会だからできる活動とは？
  - 多忙な現役世代が現実的に参加できる活動にする必要もあり（卒業30年目の総会懇親会幹事、会報制作対応のさらなる負荷軽減）
- 活動を支えるための予算配分、人員の見直し
- 同窓会の方向性を検討、各組織を調整・リードする横ぐし組織・機能(戦略企画組織)の設置

## ■ 6年委員 人材獲得の体系化、集まった後の定常的な活動の整理

- 何となく人づてによる開拓からの脱却
  - 体系化の例：松本本部と連携して、松本懇親会幹事準備で集まっている卒業24年目関係者とコンタクト&東京同窓会周知を行い、関東近辺関係者とのコミュニケーション&6年委員の開拓推進
- 卒業24年目のメンバーが獲得できた後の活動の整理  
(ただ親睦で集まるだけでなく、総会・懇親会、会報制作活動への関与(によりスムーズに30年目の幹事活動に入れるようにする) など)

# (参考) 新たな東京同窓会の活動 イメージ一例

- (前提) 東京同窓会の存在目的を「関東近辺に在住する縣陵を卒業した若手からシニアまで 幅広い層による交流の場の形成」とした場合。。。
- 若年層中心の活動の場の創設 活動支援
  - 商工会の「青年部」のイメージ。基本シニアは口出ししない
- 若手からシニア(現 東京同窓会)にコンタクトを取りたくなるような施策の実施
  - シニア層の持つ技術・知見を若手に紹介、レクチャーする機会 (ちょっとしたセミナー会)
    - 例：家でもできる簡単ストレッチ はじめての不動産投資 建築の背景を聞きながらの街巡り
- 集まる動機の追加(松本本部との連携必須)
  - 今は20歳の松本本部新年会(賀詞交歓会)、卒業25年目の松本同窓会総会幹事、30年目の愛のリレー・東京同窓会総会幹事 くらい  
卒業10年目 20年目あたりに集まる動機が欲しい (例えば卒業20年でタイムカプセルを掘り出す など)
- ほか、、、(みなさんとアイデアを出し合いたい)

おわり